

山陽小野田市健康づくり推進協議会議事録

会議の種類	平成29年度第3回山陽小野田市健康づくり推進協議会		
日時	平成30年2月22日(木) 18:00~19:30		
場所	小野田保健センター		
出席者	小野田医師会	川端章弘	(会長)
	厚狭郡医師会	中根比呂志	(委員)
	厚狭歯科医師会	山崎哲朗	(委員)
	山陽小野田市ふるさとづくり協議会	石川宜信	(委員)
	山陽小野田市老人クラブ連合会	守田節子	(委員)
	山陽小野田市食生活改善推進協議会	半矢幸子	(委員)
	山口県看護協会小野田支部	井上孝子	(委員)
	山口県歯科衛生士会小野田支部	藤本文子	(委員)
	山陽小野田市社会福祉協議会	沖野浩	(委員)
	一般公募	曾瀬護	(委員)
	一般公募	福田順子	(委員)
	(出席者数 11人)		
欠席者	小野田歯科医師会	平木雄三郎	(委員)
	山陽小野田薬剤師会	松澤進	(委員)
	山陽小野田市自治会連合会	平中政明	(委員)
	山陽小野田市連合女性会	井上幸子	(委員)
	山陽小野田市小・中学校PTA連合会	政田修一	(委員)
	山陽小野田市母子保健推進協議会	吉田由美子	(委員)
	山口宇部農業協同組合	相本まゆみ	(委員)
	山口県栄養士会宇部専門部会	藤井紘美	(委員)
	(欠席者数 8人)		
オブザーバー	山口県宇部健康福祉センター 主幹 原田 八重		
事務局	健康福祉部長 岩本良治	健康増進課長 岩佐清彦	
	健康増進課技監 河野静恵	母子保健係係長 大海弘美	
	成人保健係係長 岡手優子	母子保健係主任 末永久美	
	食育連携室室長 加藤諭香江		

	<p>1. 健康福祉部長あいさつ</p> <p>2. 議事</p> <p>(1)第8回SOS健康フェスタについて（報告）</p> <p>第8回SOS健康フェスタについての説明 資料1</p>
会 委 事 務 局	<p>意見、質問等ないか。</p> <p>来年度は、厚狭地区で実施されるとのことだが、駐車場は確保できるのか。</p> <p>現在職員駐車場としているところやこれから旧厚狭図書館跡地を駐車場として整備する予定で十分ではないかもしれないが、現在よりスペースは確保できます。</p>
会 委 事 務 局	<p>(2)健康づくり計画について</p> <p>・健康づくりに関する市民意識調査結果等の説明 資料2</p>
委 事 務 局	<p>意見、質問等ないか。</p> <p>年齢別の分析が必要ではないか。</p> <p>これから年齢ごとなど設問をクロス集計して分析していきます。</p>
委 事 務 局	<p>いつ頃どこにどのような形で結果を報告するのか。</p> <p>分析結果については、健康づくり推進協議会にて随時報告する予定です。</p>
委 事 務 局	<p>市民にはどのように調査結果を報告するのか。市広報を活用できないのか。</p> <p>市民の皆さんには、計画書ができましたら、ホームページで啓発する予定です。</p>
委 事 務 局	<p>回収率45.4%はよかったのか。</p> <p>いい方です。</p>
委 事 務 局	<p>回収率の目標は何%だったのか。</p> <p>40%です。</p>
委 事 務 局	<p>他市と比べて回収率はどうか。郵送料をかけてこの数字では、もう少し広報啓発に力を入れて努力する方法があったのではないか。この回収率に満足することなくもっと回収率をあげるようお願いしたい。</p>
委 事 務 局	<p>わかりました。</p> <p>高齢者の健康への関心が高いから高齢者の回収数が多いと思うが、若い世代の回収数が少ないが参考になるのか。回収数を年代ごとに予測して配付されたのか。</p>
委 事 務 局	<p>人口比率に合わせて調査票を郵送していますので、人口が多い世代は郵送した割合が多くなっています。ただ、人口比率に合わせて回収できているかどうかは確認できていません。これから、年代ごとの回収率を出すことはできます。</p>
委 事 務 局	<p>健診について、受診の意向をハガキで聞いているのか。</p> <p>後期高齢者の健康診査のことだと思います。「定期的に医療にかかられていれば、意思表示をした人は健診を受けなくてもいい。」といった内容だと思う。それによる受診率の集計方法については把握していな</p>

委員	い。
事務局	いつからハガキを送付しているのか。 今年度からです。 後期高齢から発送しているが、国保の特定健康診査対象者については受診するよう勧奨している。
委員	来年度、健康増進計画策定の検討委員会を立ち上げるということだが、この会の委員と別の委員を選出しないといけないのか。
事務局	所属団体に選任はお任せします。
委員	健康づくり推進協議会と同じ団体から新たに検討委員会の委員を選出するのか。同じ所属団体から選出するのに、別の会で検討しないといけないのか。
事務局	この会は市の保健事業を諮問する機関で、検討委員会は計画の検討をする会なので、別の会です。
委員	この会に出てきている人ならこれまでの経緯も把握しているが、他のメンバーになるとまた一から学ばないといけない。この会が検討する方がよいのではないか。
委員	諮問機関とは何か。健康づくり推進協議会と検討委員会の大きな違いと別の会で検討した方がよいという理由は何か。
事務局	健康づくり推進協議会は、法律上の行政の附属機関であって、市長に対する提言や計画の進捗状況などを審議、意見し、それを反映させることを目的としている会で、検討委員会は、ざくばらん自由な発言ができる会です。協議会の委員でも同じでも構いません。
委員	アンケートのとり方についてだが、年代別の回収数がランダムでいいのか。年代別の回収率が均等になるようなとり方がよかったのではないか。健康に関心のある高齢者の回収率が多いが、国は、高齢者を地域で支えあってほしいという指針も出している。高齢者を支えられる、市民が満足する対応ができるのか。
事務局	このような調査は、人口比率に対して行い、みなさんの意見を聞くのが通常の方法です。
委員	年齢を絞って内容を検討し、「未病」を減らす調査を別に実施する必要があるのではないか。
委員	調査内容は、国の雛形が決まっているのか。
事務局	決まっていません。市独自の内容です。
会長	(3) 食育推進計画について
委員	・食育に関する市民意識調査結果についての説明 資料3 意見、質問等ないか。 食育は、小さい子どもにとって精神的にも大切ではないか。 大家族が減って核家族が増加している傾向にあり、家庭での食育が難しくなっている。各学校のコミュニティスクールも家庭の中だけでなく、地域で教育をサポートしていく流れがある。食育は重要なこととして捉える必要がある。

事務局	食育は、健康だけではなく、地産地消や教育の面でも課題は出てきている。全市体制で今一度力を入れていくため、来年度、体制を組み替えていく予定です。
委員	食育は、市民の心にも身体にも大切な要素で重要と考えている。 これまで、他の行政の機関とも関係団体とも連携を図って食育を推進してきた。中心となる食育連携室もある。自主的な活動の中で、食のネットワークを広げ、しっかり基盤もできた。管理栄養士もそうだが、保健師もリンクしてしっかり進めていかないといけない。これまでどおり、農林、観光、環境、学校教育など行政の他の機関とも1本化していただき、引き続き健康増進課が行政の中心となって進めてほしい。今回の調査結果も含めて、高齢者や地区組織に何ができるか一緒になって考え、子どもたちも育てていきたい。
委員	小中学生は、部活動をし、塾に行き、パソコンをし、ゲームや携帯をしながら、睡眠もとる。とても忙しいのも現状ではないか。
委員	食育の調査は、直接配布しているので、回収率がいい。
委員	企業によっては、偏りができるかもしれないが、企業の協力が得られている。
会長	(4) 平成30年度保健事業(案)について 資料4
事務局	意見、質問等ないか。
委員	欠席された委員の意見を紹介 産婦健康診査事業について、赤ちゃん訪問時に、産後うつではないかと思われるお母さんや産後うつにかかっていたけど治った。などといった声を聞きます。そんなお母さんの心強いサポートになると思う。 すこやか山陽小野田の不妊治療の申請先の「保健所」とはどこのことか。
事務局	「健康福祉センター」に修正します。
委員	産婦健康診査は、市民だけが受けることができるのか。里帰りはどうか。
事務局	市民のみだが、県外に里帰りしている市民も対象です。
委員	健康の問題も、食事の問題も高齢者だけでなく若い世代も重要。伝統文化を継承することも含めて、多世代一緒に住むことを推奨してはどうか。小学生や妊産婦に助言者がいない環境も現状。社会問題でもあるが、若い世代が市に定住しないのは雇用の問題もある。行政が、合わせて課題に取り組んでほしい。
事務局	来年度からは、子育て総合支援センターでは、随時保健師等が相談に応じることができるので利用していただきたい。また、雇用等の見解もあるが、関係部局と共有したいと思います。
委員	同居したいと思う方は少ないのではないか。
委員	産後ケア事業のショートステイは、市内には限られた病院しかないが受け入れはできるのか。
事務局	利用できる方の基準もあり、対象者は少数になると思います。すでに

	実施している宇部市の実績を参考にすると、対応できると考えている。
委員	(5)その他
事務局	健康づくり計画最終アンケートを4月に各委員に50部ずつ送付する予定ですので協力をお願いしたい。
委員	それをどのようにするのか。
事務局	各団体から市民に配布して回収していただきたい。回収後は事務局が取りに伺います。
委員	医療関係者に偏っていないか。
事務局	最終評価であり、前回の中間評価と同様の手法でお願いします。
委員	100%回収できなければできるだけ範囲でいいのか。
事務局	7割くらいを回収目標としています。
オブザーバー	健康づくりは多方面からいろいろな考え方をしていけないといけな い。行政だけが進めていくものでもない。 県では、「健康経営」という考え方を取り入れている。今年度4月から認定制度に取り組んでいる。県内では、130の企業がエントリーし、独自の健康宣言をして取り組んでいる。例えば、「みんなでラジオ体操をする。」「階段を使うようにする。」「血圧計を設置して気軽に測れるようにした。」などです。取り組む企業が増えるよい。特典はソフトだが、山陽小野田市内では、2か所の企業がエントリーしている。
委員	「すこやか山陽小野田」について説明をお願いしたい。
事務局	例年通りの来年度の保健事業案ですので、本日は詳細な説明は省略させていただきます。
委員	小野田保健センターのことが全く書かれていないがどうか。
事務局	現在、母子手帳の交付等を行なっているが、母子保健事業につきましては、子育て総合支援センターに場所を移しますので、来年度からは、小野田保健センターには職員が常駐しない予定ですが、現在も検討中の段階です。
委員	小野田保健センターは使えなくなるのか。
事務局	市民館も使えなくなりますので、会議など使用できるように検討しています。
委員	先日、孫が急患診療所の休日小児科を利用し大変助かった。
委員	平日夜間の内科は、宇部市民が山陽小野田に来られ利用している。
事務局	平日夜間の小児科は、市内にないので、宇部市を利用されているようです。
委員	若い人の安心感が得られるような受け入れ体制も必要と思う。
	3. その他 次回会議は、平成30年6月28日(木)18:00～開催予定。